日本共産党
流山深井後援会

ニュースあすなろ

15年1月15日
第191号
発行責任者
菊池 伍郎
TEL/FAX
7154−0526
（部内資料）

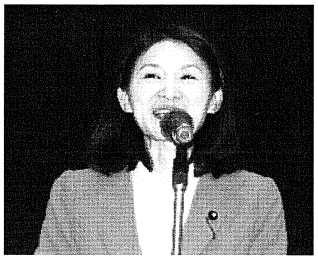
流山から県議を、市議選で4名当選を！

2015年 日本共産党 活気に満ちた新春のつどい

「県議選で流山から初議席を、市議選で4名当選を！」

1月11日、流山市の日本共産党の新春のつどいが行われました。

県議選で矢田春代さん、市議選で植田和子さんを含めた4名の当選を勝ち取るための元気のあふれるつどいになりました。



昨年末当選を果たした
斉藤和子 衆議院議員

立候補の決意表明する
矢田春代 千葉県議予定候補

激励の花束を掲げ奮闘誓う植田和子候補

頑張る 母親トリオ！

先の衆議院選挙で当選した斎藤和子議員が挨拶し、衆議院で共産党が21議席になって理事会にも出られるようになり、保守系議員に「やりにくくなったなあ」と言わせるなどが報告されました。

「私の議席は皆さんの議席でもある、議員バッジを皆さんの瞳だと思ってがんばりたい」と力強く話しました。

バッジは皆さんの瞳

斉藤 和子 衆議院議員

若者を戦場にいかせない

千葉県議選予定候補 矢田 春代

また、県議選の予定候補になった矢田さんは、「投票権を持っていない若者が戦争に行かなければならない国にしてはならない。」という思いで立候補を決意したと語りました。自民党が多数を占める千葉県議会を変えるため、二人のお子さんのママさんパワーで立ち向かいます。

声を上げれば変えられる

植田 和子 市議

2期目に挑戦する植田議員は、学校間の格差があってはならないと江戸川台小学校のトイレの改修を一歩前へ進めさせたこと、市が自衛隊勧誘のため市内の街頭年齢の青年の名簿を自衛隊に提供したことをおかしいと追及して、来年度は名簿の提出は行わないことを市に約束させたことを話しました。そして、おかしいと思ったことは声を上げなくてはいけない、声を上げれば変えることができると強調しました。

「私植田と斎藤和子さん、矢田春代さんの40代女性トリオで頑張ります」としめました。

いぬい紳一郎現市議団長・5期目を目指す小田桐たかし・3期目挑戦の徳増きよ子ら市議予定候補者からも共産党市議団の実績が語られました。

市民からも力強い応援

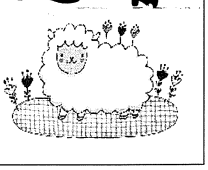
北部地域の市民の声として、東深井のTさんは、「孫が不本意に特別支援学級に入れられたが、共産党に相談にのってもらい、今は高校に合格するよう頑張っています。」と話しました。

社会保険労務士の方が言ったことが、印象に残りました。「アメリカ、財界に縛られている日本の政治、そのアメリカや財界と本気でたたかえるのはどこか？民主党はやろうとしたができなかった。これをやれるのは日本共産党だけである。」

本気で闘うことに確信を持ちつつ、具体的な実績を語り、県議選や市議選をたたかっていきたいと思いました。

（西深井、S）

原発から撤退 ただ今原発ゼロ!!



こんにちは 植田和子です

2015年1月1日

新年明けましておめでとうございます。新たな挑戦の年の幕開けです。流山市議会に送り出して頂いてから、もう4年が過ぎようとしています。この4年間、無我夢中で突っ走ってきましたが、いつも、みなさんに支えてもらい、助けてもらいながら、ここまで、なんとか活動することができました。一言では言い表せないくらい、本当に本当に感謝しています。ありがとうございました。

一昨年の参議院選挙と昨年の年末の衆議院選挙、どちらも大躍進が続いている日本共産党です。そして、今年の4月は、統一地方選挙があります。みなさんご存じの通り、植田和子が2期目に挑戦する市議会議員選挙です。4年前、引退する高野ともさんの後継者として立候補した時は『戦わずして議席を減らすわけにはいかない』この1点だけで決意しましたが、今度は、『立候補するからには絶対勝つ！』という決意です。みなさんとご一緒に、未来に希望がもてる年にしようではありませんか。

まだまだ寒い日が続きますので、お身体を大切に、楽しいお正月をお過ごしください。

矢田春代・植田和子 選挙事務所開き

2月8日（日）午後2時半
江戸川台西口商店街に選挙事務所
住所　江戸川台西二丁目152番地
お誘い合わせておいでください

ヘッドライト

大相撲が人気回復し大入り満員だ。嬉しいけれど12年も日本人の横綱がいない。新しいヒーローが生まれているが、またモンゴルの若手。これで国技というのは奇妙なものだ。出身にこだわるのがおかしいのか、国技とすることがおかしいのか。でも国民は十分楽しんでいる▼ところでなぜ隣国の韓国や中国からは来ないのだろう。そして、もしこれらの国から来た若者が横綱大関を占めたらどうなのだろう。いまの安倍総理の外交姿勢からは背筋が寒くなるようなことしか想像できない。対立をあおり、ヘイトスピーチが横行するような国で相撲が取れるだろうか▼フランスで起こった新聞社の襲撃事件は社会的なショックを与える一方、一般の日本人の感覚をはるかに超えて、欧州に強い批判と行動を呼び起こし、パリでは各国の首脳を交えた百60万人もの空前のデモが行われた。そこには人々が命を懸けて戦い取ってきた言論、思想の自由の危機を感じると同時に、事件を宗教の対立の問題にしてはならないという思いがある。対立をあおり、武力で威嚇する安倍総理の姿勢はあまりにも世界の感覚からかけ離れている。